

藤沢市 令和2年度事務事業評価シート(令和元年度分)

No. 1

事務事業名	遠藤まちづくり推進事業費										担当課	部課名	市民自治部遠藤市民センター			
予算科目コード	会計	01	款	02	項	01	目	12	細目	002	説明	05	課等の長	矢田 洋一	電話	6277

1. 事業概要

事業開始年度	平成 23 年度	終了(予定)年度	未定 年度	事業の性質	任意自治事務		
事業概要	地域主体のまちづくりを推進するため、地域の特性や個性を生かしながら、各地区でそれぞれの事業に取り組むもの。						
事業目的および必要性	遠藤地区の地域まちづくりテーマ「人と自然がいきづくまち」夢のあるまち遠藤を実現するため、高齢者を含めだれもが住み慣れた場所で安心して生活できる環境づくりの推進及び地域の観光資源を活用し広域的な取り組みを進めることにより地域振興を図ることを目的としている。これらの事業を推進することにより、郷土愛あふれるまちづくりが達成されるため、必要性がある。						
対象	1. 個人	市民(遠藤地区)				11,700 人	
根拠法令等	その他(要綱等) 藤沢市郷土づくり推進会議設置要綱						
事業実施手法(該当するもの全てにチェック)	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施						
	<input type="checkbox"/> 委託・指定管理 ()						
	<input type="checkbox"/> 補助金・負担金 (補助金 : わがまち遠藤ポスターコンクール実行委員会, 朝市実行委員会)						
	<input type="checkbox"/> その他 ()						
藤沢市市政運営の総合指針2020				その他の計画との関連			
重点施策名		指針体系コード					
コミュニティの活性化による持続的な地域づくりの推進		4-3-91					
関連の深い「市民生活に関する意識調査結果」							
市民意識調査における質問項目		平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度		
市民の意識が高く、市民参加型の地域づくりが進んでいること。		2.7 点	2.79 点	2.91 点	2.88 点		
		点	点	点	点		

令和元年度 支出済額	事業費節別内訳		
	費目	支出済額(千円)	主な事業内容
	需用費	101 千円	遠藤魅力アップ推進事業
	役員費	37 千円	遠藤魅力アップ推進事業
	使用料及び賃借料	289 千円	遠藤魅力アップ推進事業
642 千円	負担金補助及び交付金	215 千円	地域活動の広報充実事業・自然環境推進事業
【参考】 令和2年度 予算額	事業費節別内訳		
	費目	予算額(千円)	主な事業内容
	報償費	115 千円	自然環境推進事業
	需用費	702 千円	高齢者見守りネットワーク体制推進事業
	役員費	214 千円	遠藤魅力アップ推進事業
	1,416 千円	使用料及び賃借料	320 千円
	負担金補助及び交付金	65 千円	自然環境推進事業

2. この事務事業に関わる職員数(任用形態別人工数)

	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度
正規職員等	1.00	2.00	1.80	1.80
再任用短時・任期付短時職員	0.00	0.00	0.00	0.00
非常勤職員	0.00	0.00	0.00	0.00
合計	1.00	2.00	1.80	1.80

※正規職員等＝正規職員＋再任用職員(短時以外)＋任期付職員(短時以外)＋常勤嘱託職員

3. 事業実施内容・成果

令和元年度 事業実施 内容	1. 遠藤魅力アップ推進事業:2市1町広域連携による小出川彼岸花まつり, 竹炭祭, あじさいまつりの観光客等に対応するための仮設トイレを設置した。(7基) 遠藤ふるさと観光マップを作成し, 遠藤のイベント, 自然, 農産物等を情報発信した。 2. 地域活動の広報充実事業:遠藤地区内の児童生徒の視点で描く遠藤の自然や風景, 農産物等をテーマとしたポスターを募集し, 「わがまちポスターコンクール」を開催し, 遠藤地区のPRを行った。						
	指標名	単位	平成28年度 目標値	平成29年度 目標値	平成30年度 目標値	令和元年度 目標値	備考
成果目標	まちづくり事業の実施	事業	9	9	8	8	
	参考						
活動実績	指標名	単位	平成28年度 実績値	平成29年度 実績値	平成30年度 実績値	令和元年度 実績値	備考
	まちづくり事業の実施(予算化事業)	事業	2	2	4	4	
	まちづくり事業の実施(予算化なし)	事業	7	6	4	4	
成果実績	指標名	単位	実績値	実績値	実績値	実績値	備考
	まちづくり事業の実施	事業	9	8	8	8	
	数値で表せない効果						

4. コスト分析

年度		平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	
コスト	行政費用(フルコスト) A	11,550	22,439	17,257	18,152	
	(1)現金を伴う支出 (千円)	9,881	19,570	18,075	18,136	
	事業費(支出済額-②報酬合計)	236	237	729	642	
	償還金利息	0	0	0	0	
	人件費合計(①+②+③)	9,645	19,333	17,346	17,494	
	①職員給与合計(常勤)	9,101	18,438	16,501	16,454	
	②報酬合計(非常勤)	0	0	0	0	
	③退職金相当額	544	895	845	1,040	
	(2)現金を伴わない支出 (千円)	1,669	2,869	-818	16	
	①減価償却費	0	0	0	0	
	②退職給与引当金繰入額	1,669	2,869	-818	16	
	③不納欠損額	0	0	0	0	
	④その他()	0	0	0	0	
	行政収益(事業収入) B	0	0	0	0	
	(3)現金を伴う収入 (千円)	0	0	0	0	
①分担金及び負担金 c	0	0	0	0		
②使用料及び手数料 d	0	0	0	0		
③国庫支出金	0	0	0	0		
④県支出金	0	0	0	0		
⑤その他()	0	0	0	0		
(4)現金を伴わない収入 (千円)	0	0	0	0		
収入未済増減額	0	0	0	0		
収支差額(純費用)A-B E	11,550	22,439	17,257	18,152		
分析指標	項目	まちづくり事業の実施 F	9	8	8	8
	1単位あたりの総費用 A/F (円)		1,283,333.33	2,804,875.00	2,157,125.00	2,269,000.00
	市民1人あたりの負担額 E/人口 (円)		27.17 425,105	52.49 427,501	40.20 429,317	41.92 433,060
	受益者負担率 (C+D)/A (%)		0.00	0.00	0.00	0.00

※1 職員数・・・[常勤]一般職員, 再任用職員, 任期付職員, 嘱託職員 [非常勤]月額報酬の非常勤職員(一部月額報酬の非常勤職員を含む)

※2 人件費・・・[常勤]任用形態別の平均給与に人工数を乗じ算出 [非常勤]月額報酬(一部月額報酬を含む)の年度合計額

※3 退職金相当額・・・年度内に発生した退職金総額を年度当初一般職員数で除し, 事業に従事する一般職員数を乗じたもの

5. 事務事業を進めていくうえでの課題と課題解決の取組

(1) 平成30年度末時点の課題	遠藤魅力アップ推進事業である、遠藤3大まつり(小出川彼岸花まつり、竹炭祭、あじさいまつり)を主催している各団体の構成員の高齢化が進んでおり、さらに行政と連携し、事業を進めていく必要がある。
(2) (1)解決のための令和元年度の取組	既存地域団体との連携・協働をさらに進めるとともに、地域主体の取組を基本にマルチパートナーシップの構築と実践的な活動を推進し、行政としても人的要素を含む効果的な支援の検討を行った。
(3) 令和元年度末時点の課題	遠藤魅力アップ推進事業の一つである、竹炭祭を主催している遠藤竹炭の会が高齢化のため解散し、長年続いてきた竹炭祭をどう存続していくか検討が必要である。
(4) (3)解決のための今後の取組	遠藤竹炭の会の元会員や郷土づくり推進会議の委員の協力を得て、竹炭祭を存続させていくべき課題を解決していく。

6. 事務事業の特徴

(1) 事業の性質	① 法的根拠	○ ア=法令等の根拠はないが、市の裁量により実施するもの(イ～オ以外) イ=市の条例等で規定されている事業 ウ=県の条例等で事業の実施について推奨・規定されているもの エ=国の法律で事業の実施について推奨・規定されているもの オ=法律等により、事業の実施が義務付けられているもの(市に裁量の余地がないもの)	
	② 事業実施の位置づけ(市民へのサービス提供状況)	○ ア=国、県、他自治体や民間等も、市内や近隣市町村で市民が利用できる同種のサービスを提供しているもの イ=国、県、他自治体等も、市内や近隣市町村で市民が利用できる同種のサービスを提供しているもの ウ=国、県、他自治体等も同種のサービスを提供しているが、一部のサービスは本市のみが提供しているもの エ=本市のみがサービスを提供し、よりよい生活環境の実現、地域の発展、市民生活の向上を目的とするもの オ=本市のみがサービスを提供し、生活基盤の維持・確保、市民の権利維持・安全確保を目的とするもの	
	③ 事業期間	○ ア=恒久的に実施するもの イ=年限の定めのないもの ウ=時限的に実施する事業で、終了まで5年以上あるもの エ=時限的に実施する事業で、今後2～4年で終了するもの オ=時限的に実施する事業で、本年度で終了するもの	
	④ 事業費…令和元年度支出済額	○ ア=300,000千円以上 イ=100,000千円以上～300,000千円未満 ウ=30,000千円以上～100,000千円未満 エ=5,000千円以上～30,000千円未満 オ=5,000千円未満	
	(2) 財政的な特徴	⑤ 一般財源比率…事業費に占める一般財源の割合	○ ア=80%以上 イ=50～80%未満 ウ=30～50%未満 エ=10～30%未満 オ=10%未満
		⑥ 固定的経費比率…行政費用(フルコスト)に占める固定的な経費の割合	○ ア=10%未満 イ=10～30%未満 ウ=30～50%未満 エ=50～80%未満 オ=80%以上

(3) 事業の種類	(4) その他の事業特性
2. 市民等サービス(その他)	

7. 事務事業を取り巻く環境の現状と今後の予測

社会情勢等	郷土づくり推進会議をはじめとした各種地域団体の担い手不足と高齢化が顕著となっている一方、高齢者の増加に伴い見守り活動や核家族化による子育て支援など地域が担う領域は拡大している。現役世代は、仕事、家庭が優先されるため、地域活動への参加はあまり見込めない状況がある。一方で、頻発する自然災害等により、地域の絆、コミュニティの必要性の認識は高まっているものと思われる。	
	他市においても、各種地域団体の担い手不足と高齢化が顕著となっている。地域住民と行政が協働し、地域のまちづくりへの取組を行っている事例がある。	
市民ニーズ	把握方法	地区全体集会、アンケート調査等
	把握内容	地域コミュニティの活性化
	対応等	地域コミュニティの活性化に関する検討を行った。

8. 事務事業の評価と今後の方針

評価	地区まちづくり事業については、事業の実現に向けた取組み行われている中で事業が具体化し、高齢者の見守り体制の推進や三大祭における地域振興に向けた取組など、成果として表れてきている。行政と地域団体やボランティア団体等との連携を推進し、だれもが楽しく安心して生活ができる地域づくりに向けた取組を進めていく必要がある。	
	まちづくりテーマ	④ 健康で豊かな長寿社会をつくる
今後の方針	事業の方向性	現状維持
	地区まちづくり事業については、早急な事業の実現化を図るとともに地域課題の解決に向け、行政とのマルチパートナーシップを構築し、まちづくりに向けた取組を支援する。	

9. 事務事業の執行にあたって参照する業務記述書

業務記述書No.	具体的業務の名称	業務見直しの視点等			
		新たな委託（一部含む）の可能性	業務効率改善の可能性	リスク影響度Ⅰ	リスク影響度Ⅱ
1	郷土づくり推進会議委員の選定について	無	無	1	1
2	郷土づくり推進会議の開催について	無	無	1	2
6	地域市民の相談及び要望の処理並びにこれらに係る連絡調整	無	無	3	3

※リスク影響度Ⅰ・・・市民等外部へ影響を及ぼす度合い。リスクレベル1は対象者10%未満，レベル2は10%以上30%未満，レベル3は30%以上。

※リスク影響度Ⅱ・・・組織内部へ影響を及ぼす度合い。リスクレベル1は課内への影響，レベル2は部内への影響，レベル3は他部又は全庁への影響。

10. 部長確認欄

部名	市民自治部	氏名	藤本 広巳	確認日	2020/8/24
----	-------	----	-------	-----	-----------